

# 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

婦人国際平和自由連盟日本支部 金子堯子

## 【開催趣旨・目的】

個人のライフコースにおける仕事と生活の調和（WLB、ワーク・ライフ・バランス）がとれて初めて人間らしさの維持が可能となる。特に女性の場合、出産・育児を担うライフコースを考える上で、WLB促進の重要性は1985年の男女雇用機会均等法の実施以降、改めて認識されて来た。しかし、産休や育児休業の制度が広く周知されている現在もなお、いったん離職せざるを得ない女性も多いのが現状である。本企画では、離職した大卒女性が再就職を希望するとき、それを阻む重大な障壁のひとつが能力の後退にあると捉えて、その対策としての「学びなおし教育」が広く周知されることを目的とする。

本企画を通じて期待される成果として、①離職した女性が再就職を計画するためのプログラムを組む手懸かりが得られる。②「学びなおし教育」が一般に広く周知される。③離職した女性が自信を持って再就職に挑戦することが可能になる。④再就職を果たした女性が、職場の男性上司や同僚とともに働きやすい職場環境を作出するための一助となる。⑤これらの成果は、WLBの実現を支援し、再就職挑戦者の数を増やす。

## 【シンポジウム等の名称・テーマ】

「再チャレンジを目指す女性のための『学びなおし教育』」

【日時】2013年12月6日（金）

【場所】文京シビックセンター26階(スカイホール)東京都文京区春日 1-16-21  
(文京シビックセンター)

【主催】内閣府、男女共同参画推進連携会議・婦人国際平和自由連盟(WILPF)日本支部

【共催】日本女性法律家協会・文京区 【後援】日本女子大学

【参加者数】100名

## 【プログラム】

— プログラム —

13:01～13:04 開会挨拶

金子堯子（婦人国際平和自由連盟日本支部会長）

13:04～14:00 基調講演

大沢真知子（日本女子大学人間社会学部教授）

「ワーク・ライフ・バランス（WLB）における女性の再就職に果たす『学びなおし教育』の役割」

14:00～14:15 質疑応答①

14:15～14:25 休憩

14:25～15:20 パネル ディスカッション

「女性の再チャレンジの意欲を促す『学びなおし教育』の周知と拡充」

## 【パネリスト】

大沢真知子氏（日本女子大学 人間社会学部教授）

鈴木秀洋氏（文京区男女協働子育て支援部男女協働・子ども家庭支援センター）

担当課長)

中島隆氏 (株式会社ネオテクノロジー 代表取締役社長)

三宅真弓氏 (チャートジャパン株式会社 日本女子大学リカレント教育課程修了者)

【コーディネーター】

紙谷雅子 (学習院大学法学部教授)

15:20~15:30 質疑応答②

15:30~15:50 パネル ディスカッション

15:50~15:55 まとめ

紙谷 雅子 (学習院大学法学部教授)

15:55~15:58 閉会挨拶

田中由子氏 (日本女性法律家協会会長)

### 【参加者からの主な意見】

- 1) シンポジウムに対する評価欄では、1部 基調講演および、2部 パネルディスカッションについてのアンケートにおいては、「とても良かった」1部および2部ともに、52%、「良かった」1部 37.5%、2部 22.9%、「どちらともいえない」1部 2.1%、2部 6.3%、「物足りなかった」1部 2.1%、2部 0.0%、であった。
- 2) シンポジウムのテーマである女性の再就職についてのアンケートにおいては、①「再就職を阻むものがあるとするば、その理由は何ですか。」に対する回答は、育児 10.4%、介護 6.3%、能力の後退 27.1%、希望する仕事が見つからない 20.8%、であった。
- 3) ②(再就職を希望する方は、)「再就職のための学びなおし教育を受けてみようと思いますか。」に対する回答は、思う 41.7%、思わない 2.1%、その他 10.4%、無回答 45.8%、であった。
- 4) ③「本日の企画から、今後の生活へのヒントが得られましたか。」に対する回答は、得られた 72.9%、得られない 0%、無回答 25%、であった。
- 5) 自由記述
  1. 予約なしで入ったのですが(保育も含め)子供のことが少し心配だったのですが、関係の方(保育担当)から子供の様子をおしえていただけて嬉しかったです。ありがとうございました。
  2. アサーティブの手法を使い人権、自尊感情、エンパワーメント、自分らしさ等伝えているが、意識が大切である事を再認識できた。秋田リカレント教育ができるように(思いを形)に行動したい。行動するパワーをいただいた。
  3. いろいろな働き方をすることに関して経営者の立場からの意見もお聞きして貴重な時間となりました。残業するから重宝する会社の利益に結び付くわけではない。限られた時間にいかに効率良く仕事をするかが重要であるという考え方はもっともだと思いましたが、能力の高い方には良くて、ルーティンな仕事しかできない人には大変だと正直思いました。
  4. 国の政策としてのワークライフバランスと企業側の求める人材像のギャップを縮めること、男性の考え方の転換が必要ではないかと思いました。
  5. 役所が終了生をインターンとして是非受け入れていただきたいです。高齢女性の学び直しの問題も今後の取り組みの考慮に入れて欲しいとおもいます。参加者にもシニアの女性の姿が少なからずみられました。今後もこうしたテーマをとりあげてください。とてもいい企画です。

6. 私は自分の人生の大部分を終え、ボランティア活動や社会貢献の階段に入っていますが、子供達・若者世代の生き方の参考になった。「学び直し教育」を若い世代に大いに進めたいと思いと同時に何歳になっても学ぶことは続けるべきだと感じた。
7. 現在仕事しているので男性側の意識改革が必要と考えています。
8. 私の職場は女性比率を高めるためにパートタイムが調整になっているのが現状ですが、そこから飛び出せば様々な道があるのだと希望はもてました。男女の意識変革が重要だと思いました。
9. 今後のワークライフバランスは自分の働き方の見直し、会社と自分だけでなく社会貢献や家族などのかかわりも含まれると考える事が大事と思いました。
10. やりたいこと！に挑戦していきます！中島さん、三宅さんの実際に基づいたお話しは有意義です。鈴木さんの行動の幅の広さが人間の幅に繋がっているように見受けられます。是非文京区長と躍進してください。大沢先生の論理的なお話しも興味深く拝聴させていただきました。ありがとうございます。
11. 参加者が積極的にフロアーから意見を述べているのが良かった。
12. リカレント教育のカリキュラムがとても気になっております。

### 【シンポジウム等を通して得た成果（効果）】

1. 満席となる盛況で東京近県のみならず、長崎、広島、香川、兵庫および秋田の各県からも参加された。また、資格も地方自治体、企業、NPO、個人と多岐にわたり、年齢も30代~70代にわたる広範囲で、特に30-40代の女性が44%弱を占めていたのが特徴である。
2. また、支援を目指す男性も多く参加された。基調講演を通じて、ワークライフバランスとは、会社と自分だけでなく社会貢献や家族などのかかわりも含まれるという考え方が、参加者に改めて捉えなおされた点に成果が得られた。
3. パネル ディスカッションでは、パネリストは、① 学びなおし教育を修了して再就職を果たしている女性 ② 学びなおし教育を修了して再就職を果たしている女性を多数雇用している会社の経営者(男性)、③ 区役所において地域行政の携わる役職者(男性)、④ 基調講演者(女性研究者)、から構成された。その結果、参加者にとって、WLB や、「学びなおし教育」への具体的なイメージを得る機会となったと考えられる。フロアーからの質問に、「学びなおし教育」を受ける資金の調達について出されたが、パネリストからの答えに、多くの参加者の共鳴が認められた。パネル ディスカッションの結果、アンケートの中に、②(再就職を希望する方は、)「再就職のための学びなおし教育を受けてみようと思いますか。」に対する回答として、思う 41.7% が得られたと考えられる。
4. 高齢者の参加者から、若者世代の生き方を知る機会となったという声もあって、女性の再就職は、シニア世代によるバックアップも大切である点から、広く周知していく上で、心強いことであった。

### 【今後の課題】

1. このシンポジウムは、男性が、「女性が再就職することは、良いことなのだ。」という意識を持つ重要性を確認することとなった。男性への啓蒙活動のあり方を考え直す必要が

ある。

2. 現在、女性の再就職は企業内で取組が始められているが、あくまでも、現在勤務している社員への取組である。再雇用の問題を、女性全体の問題として捉えて行く方向性が求められる。
3. 「学びなおし教育」課程を備えている大学は、現在、都内で1か所に過ぎない。少なくとも、地方の大きな都市に1つはそのような大学を設置してほしいという声がある。秋田県からの参加者の声にも現れている。
4. 「学びなおし教育」課程の学生への奨学金の充実の面での緊急な対応が、必要である。
5. 参加者からも、このようなシンポジウムが今後も開かれることへの希望があったように、再就職希望の女性を支援するための、「学びなおし教育」の周知を徹底してほしい。

—以上—